

2023年度 教育研究組織(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
①引き続き、教員の男女比、年齢構成、外国人教員の割合、実務家の登用を各学部、研究科作業部会において検討する。	①実務家教員の数を調査した。	80%	実務家教員数/専任教員数は外国語学部7/29、経営学部8/22、人間学部22/50、保健医療技術学部47/70、全学84/171で、半数近くの教員が実務経験を活かす科目を受け持っていた。保健医療技術学部で最も比率が高く教員の3分の2が該当した。	2023年度授業シラバスと2023年度学校基本調査学生教職員等状況票を参照した。	実務家の登用について、シラバス検証に時間がかり研究科委員会の調査が未達成となった。シラバス検証の簡易化を図ることとした。
②現存する文京学院大学「教員組織の編成方針」について、各学部・各研究科ごとに見直しをする。	②本学教員の職位、男女比について調査を行った。	80%	専任教員数(男/女)は教授44/31、准教授26/33、助教11/15、助手6/5、外国語学部17/12、経営学部13/9、人間学部24/26、保健医療技術学部33/37、全職位・全学87/84であった。男女比が全体では1.0であったが、職位別、学部別でみると教授、外国語学部と経営学部で1.4であった。	2023年度学校基本調査学生教職員等状況票を参照した。	教員の年齢構成、外国人教員の割合の調査が情報にたどり着かず、未達成となった。人事課と交渉して各部会に情報提示できるようにする方針を定めた。

2024年度 教育研究組織

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
各科目シラバス冒頭の「実務経験のある教員による授業科目」欄を有効化することを全学教務委員会に依頼し、実務家教員の検証の効率化を図る。研究科委員会の調査を加え、結果の妥当性を検討する方法を立てる。
人事課に、各年度の教員の男女比、年齢構成、外国人教員の割合についてレポート(全体と部局)を用意してもらうことを依頼し、教員構成の是非について考慮する環境を整える。本校ならびにピア校の状況を調査し、結果を比較する。